



2月定例会

一般質問
木育の推進



伝統的工芸品の魅力発信を

能登半島地震からの一日も早い復興を願うと共に、今後の避難所の運営について提案し、更に若者や女性から選ばれる県を目指して、男女共同参画の推進を求めました。また、伝統的工芸品とクラフトの連携と魅力発信、ウッドチェンジと木育の推進について質問をしました。

木育の推進

【丸山】 林野庁では「木づくり運動」の環として、木材への親しみや木の文化への理解、木材の良さや利用の意義を学ぶ木育を推進しているが、県の取り組みについて伺う。

【須藤林務部長】 豊かな自然環境や地域資源を活用した信州やまほいくの推進、里山のトレッキングコースの整備、里山の恵みを活用するワークショップの開催、学校林を利用した遊び場づくり、小中学校を対象とした木工教室や木工工作コンクールの支援を進めてきた。今後も「木曾おもちゃ美術館」等、木育活動に関する情報発信を強化していく。

合から、工芸品とクラフトの連携について事業提案があり、予算に計上した。具体的には、「木曾くらしの工芸館」に工芸品とクラフトの常設展示場を整備する。木曾平沢で伝統工芸士とクラフトパーソンが交流するイベントやワークショップの開催を計画している。互いの利点を融合し高め合い、消費拡大、人的交流の機会を増やす取り組みを推進する。

【丸山】 伝統的工芸品やクラフトをより身近に感じてもらうことで、購買力の向上や将来の担い手の確保につながるかと期待するが、魅力発信する県の取り組みについて伺う。

【田中産業労働部長】 松本市において、長野県伝統工芸品展を開催し、木曾漆器等の実演会や体験会を実施した。また、信州ハンドクラフトフェスタでは、信州産によるはた織りや飯田水引製作体験会を開催し、更に小学生職業体験事業「ジョブキッズしんしゅう」とのコラボによる信州組子細工と松代焼の特別体験を実施した。今後も魅力発信に取り組んでいく。

ウッドチェンジの普及促進
普及促進と木育の推進

【丸山】 県産材の活用や販路拡大の取り組みとして、従来の素材を木材に代替するウッドチェンジが有効と考えるが、県内の取り組み状況について伺う。

【須藤林務部長】 脱炭素社会の実現に向け、金属やプラスチック製品を木に変えていく機会と捉え、県産材を支援している。取り組みから、木質テナントの事業化、DIY用規格材の販売などの事例が生まれている。また、県産業振興機構の「県産品商談会」や木材の展示商談会ウッドコレクション「モクコレ」への参加により、販路拡大を推進している。生活の中で手



【塩尻市ウッドスタート事業】
塩尻市HPより

伝統的工芸品とクラフトの連携と相乗効果

【丸山】 ものづくりとして共通点のある伝統的工芸品とクラフトが連携し、相乗効果を図ることが有益と考える。県の取り組みを伺う。

【田中産業労働部長】 伝統的工芸品とクラフトの共通点と強みを取り入れた価値の創造は、ファン獲得や消費拡大につながる。木曾漆器工業協同組



女性視点の防災・減災
働き方改革に男女共同参画の視点を

女性視点の防災・減災

【丸山】 災害時、避難所における人道的な支援活動の国際的基準として「スフィア基準」があるが、長野県避難所運営マニュアル策定方針においては、どう活かされ、市町村に対して、どう普及、啓発を行っているのか伺う。

【前沢危機管理部長】 県の策定方針にスフィア基準を活かし、被災者が尊厳ある生活ができる避難所TKBの環境改善、女性や要配慮者に配慮した住居スペースの確保、避難所運営する組織への女性の参加等を記載している。市町村を訪問し、課題解決を図るキャラバン隊や避難所の設置・運営研修で改善に取り組んでいく。避難所以外でも女性の防災リーダーの育成にも取り組む。

【若者・女性が活躍できる社会に向けた働き方改革】

【丸山】 女性が職業生活において、十分に能力を発揮し、活躍するために個々の生活に合わせた多様な働き方や、男性の育児休業取得の促進など、職場環境の整備が重要と考えるが、現状と今後の取り組みを伺う。

【阿部知事】 女性が活躍するためには、個人のニーズに合った柔軟な働き方ができる職場の理解と環境整備が大切である。職場環境改善アドバイザーによる短時間正社員制度やフレックスタイム制度



【丸山】 女性活躍の社会を実現するため、全世代が固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女共同参画の意識を持つことが必要と考えるが、県の取り組みを伺う。

【阿部知事】 子育てしやすい環境、女性や若者が働きやすい職場、女性や若者から選ばれる県づくりを進めていく上で、固定的性別役割分担意識の払拭が大きな課題である。女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会の取り組みや職場いきいきアドバンスカンパニーの認証取得の促進などにより、性別を問わず活躍でき、仕事と家庭、社会生活が



両立できるように取り組んでいく。若い人や女性と意見交換し、戦略に盛り込んでいく。

ひとことメモ

【「スフィア基準」は、マニュアルではなく、ガイドラインとして活用している。

【「避難所TKB」は、災害時の最優先課題であり、命を守るために保障されるべき整備で、T(トイレ)、K(キッチン)、B(ベッド)のこと。高齢者が使いにくいトイレのために水分を控えて健康が悪化したり、ベッドではなく直接床に敷かれた布団により、細菌が舞い上がり、感染症にかかるリスクが高まっている。

災害関連死を出さないためには、事前の準備が大切。

県民文化健康福祉常任委員会にて質問しました



り組みを始めようとしているが、難しい案件もあると思うので、未策定の市町村については、訪問による働きかけや、県医療的ケア児等支援センターと連携して促進していく。

県民文化部 (こども・家庭課)

困難な問題を抱える女性への支援

【丸山】「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が令和6年4月1日に施行することに向け、都道府県に義務づけられた基本計画の策定を進めるため、県では今、パブリックコメントを募っている。素案の中には、「男女共同参画」「人権の尊重」「女性の福祉」といった分かりやすい用語が見当たらないが考えを伺う。

健康福祉部 (地域福祉課)

医療的ケア児等の災害対策

【丸山】医療的ケア児等の個別避難計画策定支援事業について、令和6年度予算案として、策定に係わる医療専門職への謝金等が市町村へ助成される。

令和3年に災害対策基本法が改正され、市町村の努力義務として、優先度の高いものについて、概ね5年で策定となっているが、現在の策定状況と、今後の対応を伺う。

【課長】

令和5年10月の調査では、全部策定と一部策定を合わせ、約73%である。

現在、ほとんどの市町村で取



携についてお聞きする。地方から家庭内の虐待などを理由に家出をし、都会に出てきた若い人をターゲットにしているケースがあると報道されている。それらから守るために相談に乗り、保護活動をしている女性団体がある。地方都市では、なかなかそういった団体の有無が分からないが、県として現在そのような活動団体を把握しているのか。



3月8日は国際女性デー

【課長】県内で女性支援に特化した団体は把握していないが、東京などで支援活動をしている事例を研究しつつ、どういった連携が可能であるか検討していく。

【課長】売春防止法の保護更生から支援への転換については、本文の最初に記載した。今回は、支援計画なので、理念よりももう少し具体的に落とし込んでいる。策定懇談会でも、対象となる女性が変わりにくいのではないかと意見を頂いた。今回の法律施行となった背景には、若い女性の特に性的搾取といった問題があった。周知により、自分が該当者であることが分かるようにしていく。若い人が相談しやすいようにSNSの活用とスタートし、相談員のスキルアップの研修も行っていく。

【丸山】

民間の支援団体との連



令和6年度長野県議会
議長／山岸 喜昭(自民党) 副議長／続木 幹夫(改革信州)
改革信州 委員会構成 ◎委員長 ○副委員長

総務企画警察 (常任)	小林東一郎	荒井 武志	
県民文化健康福祉 (常任)	埋橋 茂人	林 和明	
産業観光企業 (常任)	高島 陽子	○小林 陽子	
農政林務 (常任)	◎中川 博司	丸山 寿子	
危機管理建設 (常任)	望月 義寿	○竹村 直子	
環境文教 (常任)	◎花岡 賢一	佐藤 千枝	
議会運営	高島 陽子	花岡 賢一	○丸山 寿子
決算特別(内定)	埋橋 茂人	望月 義寿	小林 陽子

丸山としこ 片丘地区 県政報告会

日時／2024年4月26日(金) 19:00～20:30
場所／片丘多目的研修センター(片丘支所)
2Fホール (塩尻市片丘4758-7)

- 県議としてのこの1年
- 片丘バイパス、信州F・POWERプロジェクト
- 信州ブランド ■ 福祉、介護、子育て支援 他

片丘地区
以外の方も是非
お越しください

扉を開けて

県議として、本当に慌ただしい一年で緊張の日々でした。決算特別委員会にも所属し、特に何ヶ所も訪問した警察署や本庁調査では直接質疑をすることができ、充実感がありました。会派に所属することで、多様な視点から、新しい発想を頂きました。各議員の出身地域も様々で、県全体の情報が把握でき、研修や議論の機会も多く、良い環境で議員活動にあたることができました。

引き続き、皆様のお声に耳を傾け、頑張ってまいります。

令和6年度予算 総額 9991億円余を可決

1 人口減少の緩和と適応

- 女性、若者から選ばれる県づくり
- 人口減少下における人材確保
- 世界で稼ぎ地域が潤う経済循環の実現
- 県内移動の利便性向上

2 未来への挑戦

- 個別最適な学びへの転換
- ゼロカーボン加速化
- デジタル・最先端技術の活用推進
- 輝く農山村地域創造



トピックス

▶子育てしやすい環境づくり

- ・子育て家庭応援プランに重点をおいた予算配分
- ・3歳未満児の保育料軽減支援を拡充、子ども・子育て応援市町村交付金を創設、子どもの通院医療費助成を中学校3年までに拡充
- ・子育て負担軽減に継続的・安定的に取り組むため、「こどもの未来支援基金」に100億円の積立

▶女性・若者が働きやすい職場づくり

- ・女性の活躍を促進、女性起業家支援、女性デジタル人材育成、男性の育児休業取得促進に取り組む企業等への助成金の支給

▶若者とのつながりづくり

- ・若い世代の地元への定着、U・Iターンの促進

6月定例会日程(予定)

- ▶6月20日 開会
- ▶7月1日～4日 委員会審議
- ▶6月25日～28日 一般質問
- ▶7月5日 開会



このチラシは「FSC」森林認証紙を使用しています。